

# SDS ゲートキーパー養成講座 報告書

2023 年 11 月 21 日

報告者：山口大学医学部 SDS 支援システム開発講座

**開催日時：**2023 年 11 月 21 日(火) 13 時 30 分～15 時 00 分

**開催場所：**宇部市役所 3 階 会議室 3-4

**参加定員：**15 名

**参加対象者：**こどもえがおサポーター・スクールソーシャルワーカー

**参加申し込み方法：**宇部市障害福祉課へ申し込み 宇部市役所 教育支援課

**開催形式：**会場参加のみ こどもえがおサポートチーム連絡会議

**講演者：**山口大学医学部社会連携講座 山根俊恵教授

**参加人数：**16 名

## 概略：

早期に SDS (Social Distancing Syndrome：社会的距離症候群、偏見や誤解を生まない用語として、いわゆる「ひきこもり」に代わる用語として提案) の当事者やその家族に気づき、思いを傾聴し、苦悩を理解して適切な支援機関につなげ、見守る「SDS ゲートキーパー」の養成、また SDS に関わる支援者のスキルアップ事業の一環として、本講演が開催された。

## 内容：

学校と連携して動く支援員として、11 月 14 日に開催した「SDS ゲートキーパー養成講座～教育者編～」(講師 山口大学医学部 SDS 支援システム開発講座 山根俊恵教授) を視聴した。

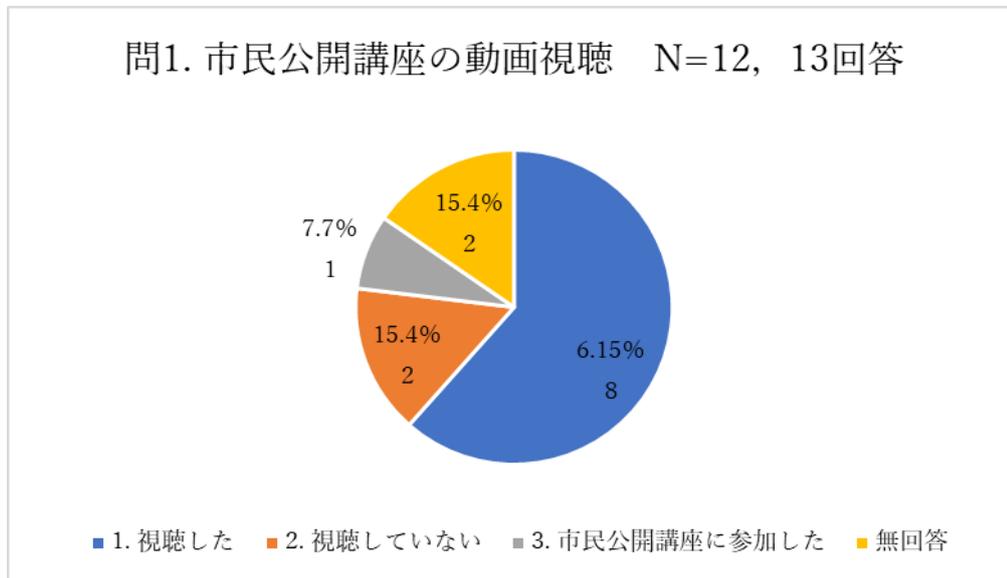
以下、終了後のアンケート結果 (p2～8) を添付する。

# SDS ゲートキーパー養成講座アンケート集計結果

## 回収状況

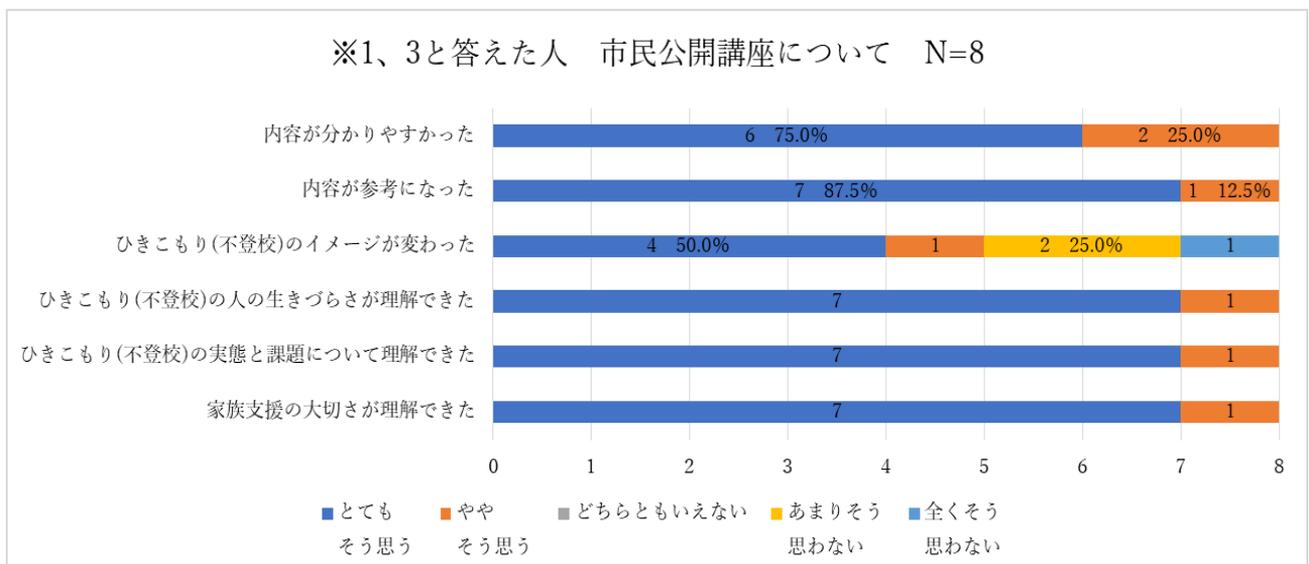
参加者 16 名にアンケート用紙を配布し、12 枚の回答を回収した（回収率 75%）

## 問1. 市民公開講座「誰もがなりうる『ひきこもり』正しい知識」の動画視聴



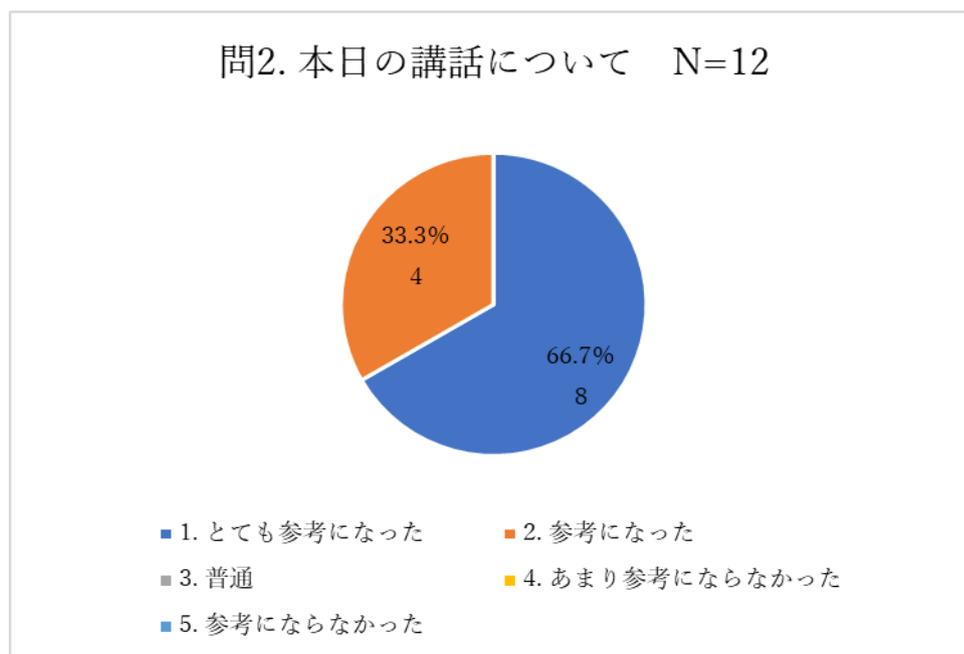
「動画を視聴した」が 8 名で、うち 1 名は更に「市民公開講座に参加した」とも回答していた。

## ※1.3 と答えた方 動画を視聴(市民公開講座に参加)して、どのように感じましたか。



「内容が参考になった」「ひきこもり(不登校)の人の生きづらさが理解できた」「ひきこもり(不登校)の実態と課題について理解できた」「家族支援の大切さが理解できた」がそれぞれ「とてもそう思う」7名、「ややそう思う」が1名であった。「内容が分かりやすかった」は、「とてもそう思う」が6名、「ややそう思う」が2名であった。「ひきこもり(不登校)のイメージが変わった」については「とてもそう思う」が4名、「ややそう思う」が1名に対し、「あまりそう思わない」2名、「まったくそう思わない」1名であった。

## 問2. 本日の講話について

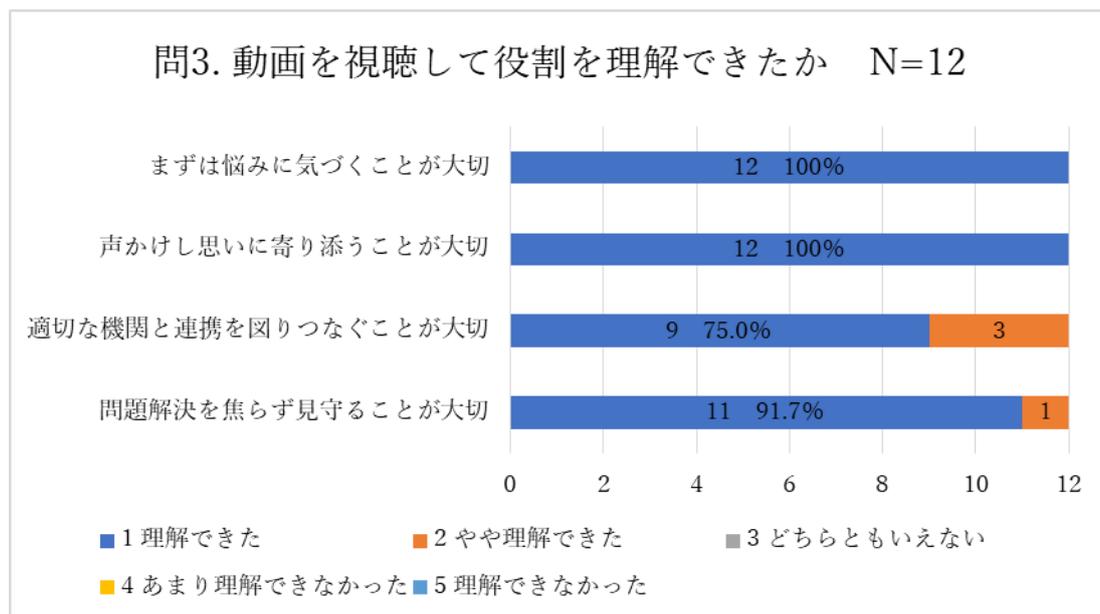


「とても参考になった」が8名、「参考になった」が4名であった。

※よろしければ、参考になった内容を具体的にお聞かせください。

支援導入時に気をつけることについて、よく理解できた。
今までは目の前の問題解決を主に考えていましたが、「今ある問題が本当の問題ではなく本人の心の苦しさを手当てする」という話を聞き、これからは本人の気持ちを想像しながら支援できればと思いました。
ひとつひとつ納得できました。参考になった点はたくさんあります。
発達特性を理解した支援の必要性。
普通は…と考えてしまうことがあるので、本人の世界をどう理解するか考えることが大事だとわかった。
問題解決ありきで考えるのではなく、心を痛めている本人の考え・世界観を想像し理解することが大事だということ。

問3. 本日の講座(動画)を視聴して、以下の SDS ゲートキーパーの役割について理解できましたか。

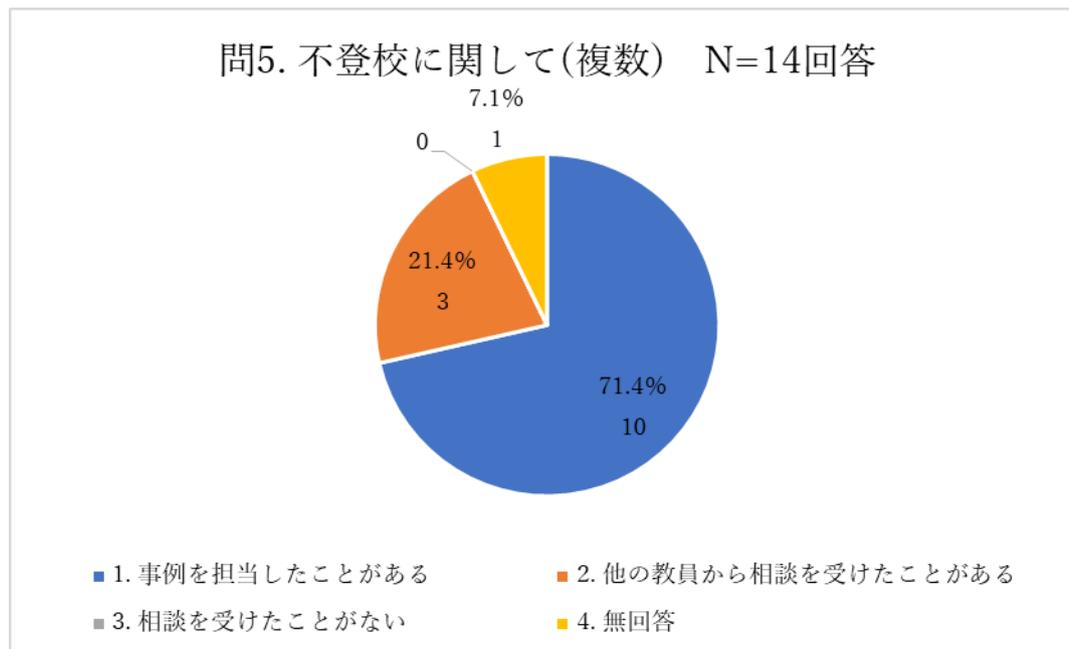


「まずは悩みに気づくことが大切」「声かけし思いに寄り添うことが大切」は「理解できた」がそれぞれ 12 名、「問題解決を焦らず見守ることが大切」は「理解できた」11 名、「やや理解できた」が 1 名、「適切な機関と連携を図りつなぐことが大切」は「理解できた」が 9 名に対し、「やや理解できた」が 3 名であった。

問4. 講座(動画)を視聴して、今後、不登校の児童やその家族から相談を受けた際に、気をつけたい事や実践したい事がありましたらご意見をお聞かせください。

<p>本当の意味で「気づく」「声かけ」「話を聴く」「つなぐ」「見守る」を考えて支援していきたい。不登校児童の家族ともっとコミュニケーションをとりいれるようにしたい。</p>
<p>親も含めて支援対象。聴く、想像する、客観的に。</p>
<p>本人のトラウマを想像することは、とても難しいと感じました。そこまで考えて支援を開始するにはどうしたら良いか、SSW と相談し、やはりチームで動くことは大事だと思いました。</p>
<p>親子さんの思っていること、状況などを聞き同調し理解しましたよと納得できる言葉かけをしなければと思います。</p>

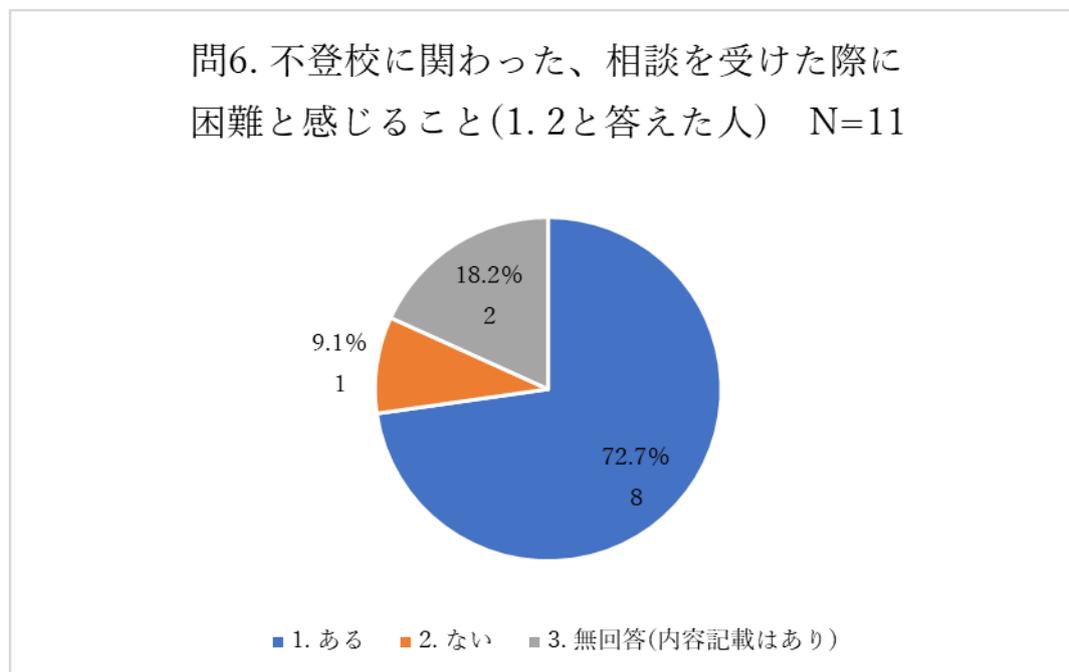
問5. 不登校に関して(複数回答)



11名が14回答であり、「事例を担当したことがある」が10回答、「他の教員から相談を受けたことがある」が3回答であった。

問6. 問5で1、2と答えた方にお聞きします。

不登校の事例に関わった、または相談を受けた際に、困難と感ずること

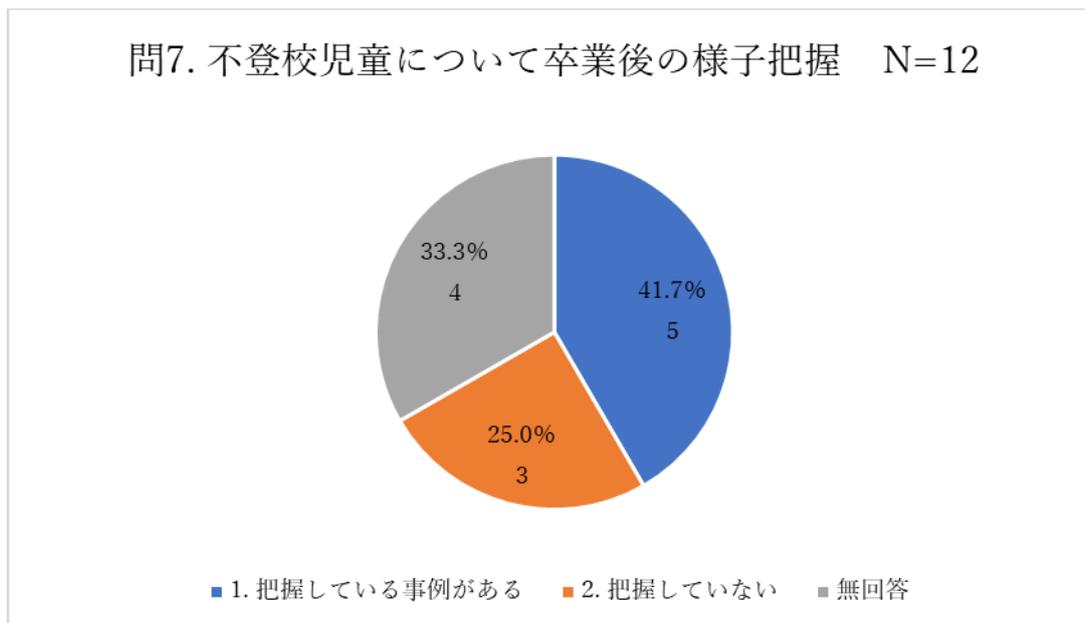


不登校の事例に関わった、または相談を受けた際に困難と感ずることについて、「ある」が8名、「なし」が1名であった。無回答は2名であったが内容については記載があった。

※どのようなことが困難でしたか。

親子さんが受験に悩まれてお話される方はいい方だが、全く無関心に思っている親子さんがいらっしゃるのは、子ども達がかわいそうだと思う。
家族、本人に受け入れてもらえない。毎日できない。
学校に行くことのみを望んでいる保護者への対応。
なかなか対話にたどりつけない。
親が真実を話さない。
親、家庭が変わらないと本人への支援が届かない。
家庭訪問をしても本人や家族に会うことができないこと(話ができないので対応が遅くなってしまう)
家庭への介入について、とても必要と思われるが、学校の方針や家庭の状況などで連携が難しくなかなかすすめられていない。

問7. 不登校であった児童について卒業後の様子を把握していますか。

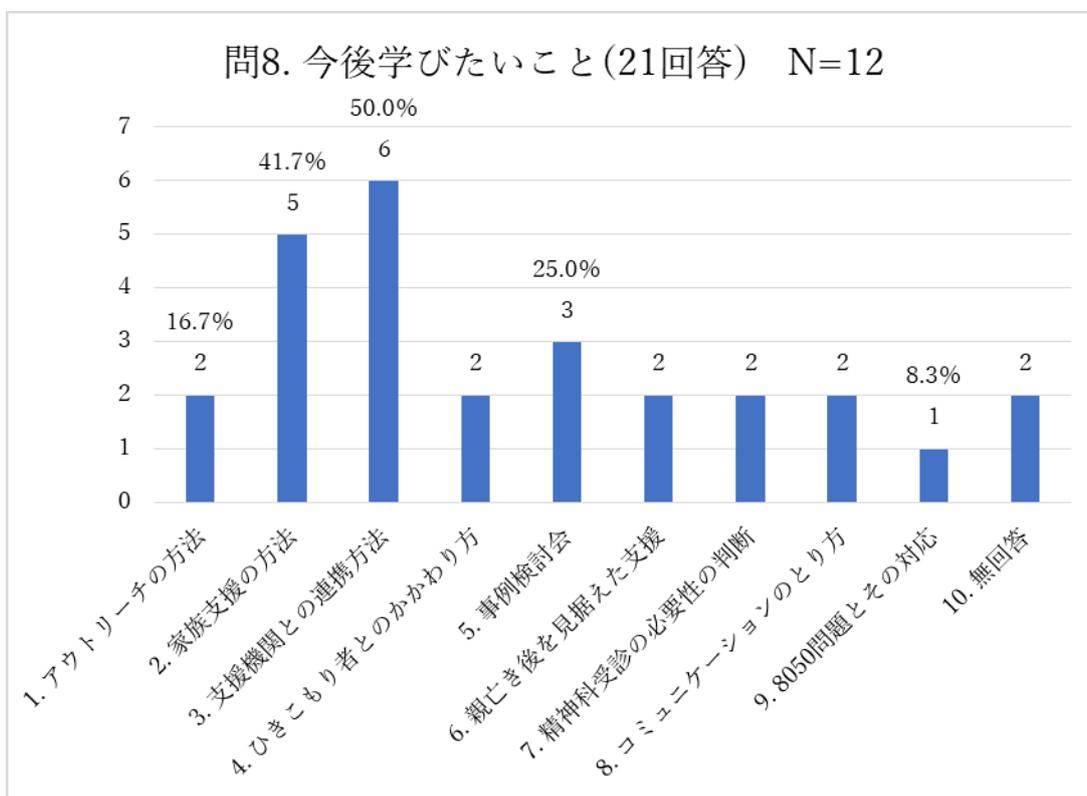


「把握している事例がある」が5名、「把握していない」3名、無回答は4名であった。

※把握している事例についてお聞かせください。

親子さん共々家を売られ、遠くに引っ越したと後に聞いている。
ほとんどは把握していないが、近所に住んでいて親と交流がある人の話は聞くことができる。(当時直接は支援していなかったが)
とりあえず高校卒業までは訪問している。
小学校卒業後→時々遅く登校することもあるが、きちんと登校できている。(中学校の先生、えがおサポートチームメンバーと情報共有をしている)
今年から始めたため、卒業後の事例がない。
通信制に元気に通っている。もしくは…何とか通っている。

問8. ひきこもり(不登校)支援について、今後学びたいこと



「支援機関との連携方法」6名、「家族支援の方法」5名、「事例検討会」は3名であった。「アウトリーチの方法」「ひきこもり者とのかかわり方」「親亡き後を見据えた支援」「精神科受診の必要性の判断」「コミュニケーションのとり方」がそれぞれ2名ずつ、「8050問題とその対応」が1名であった。

問9. 今回の「動画を視聴する」研修を終えて、お気づきや感想がありましたらお聞かせください。

行動には必ず意味があるという言葉に、こちらが聞く耳を持たなければ本人は本心をしゃべらないのだとつくづく思い知らされました。

とても参考になりました。またよい資料をいただけて今後も役立てたいと思います。

実際にこういう形で勉強をすると奥が深いと感じる。

基本的な考え方は同じだったので安心した面が大きかったです。

動画で観るスタイルだと少し長く感じました。

家族同士が学び合い、気づき合う「勉強会」が一番押し付けがましくなく、伴走できる方法だと思います。

もっとご家族におすすめしやすくなるといいな。